

土壌医検定 1 級合格体験記

井田 憲治

1 土壌医検定を知る

私は以前から仕事の合間に米つくりや家庭菜園などをやっていたのですが、6年ほど前、定年退職後に就農する事を考えて農林大学校の社会人コースに通いました。

土壌医検定のことを知ったのは、当時の土壌学の先生から「土壌医検定というのがあるので、受けてみないか」という話があったからでした。

学業や就農準備と、多忙なこともあって卒業してから受験することにして、就農2年目に土壌医検定2級を受験し合格しました。

2 土壌医検定 1 級受験のきっかけ

同時期に土壌医検定2級に合格したFB(FaceBook)友達から、一緒に1級を目指そうと誘いがありました。その時は2級合格で気が抜けていたのと、農業経営を軌道に乗せるのに精一杯だったのとで、すぐには1級を目指しませんでした。しかし、FB友達が翌年の土壌医検定1級試験に見事合格したのに触発されて挑戦することにしました。

3 受験対策

1級の試験は4択問題のほかに記述問題と業績レポートがあります。記述問題は予想を立てるのが難しく、業績レポートは何をどう書けば良いか見当が付きません。中でも私にとって最大の難関はやはり業績レポートでした。何を題材にするか色々考えた結果、就農当初からやっているナスの溝施肥と、土壌診断による施肥設計、それとマイエンザを使った堆肥投入による土壌改良を題材に業績レポートを仕上げました。結果的に、1回目の受験で、業績レポートは合格点のBをもらうことができました。ところが、他の試験が合格点に至らず、残念な結果に終わってしまいました。最大の敗因は4択に時間がかかり過ぎ、記述問題を始めた時には残り時間が10分しかなく、殆ど問題を解けなかったことです。さすがに1級は甘くはありませんでした。

私は、次の試験までの約10ヶ月の間に何ができるか、どう受験対策を立てるかを考えました。2020年度の試験は、改訂で内容が増えた参考書から出題されるという事もあり「新しい参考書を3回以上最後まで熟読し、問題集の問題を2級を含めて完璧にマスターする」という目標を立てました。

参考書については新版の発行が予定より遅れていたもので発行されるまでの間、旧版のものを読み解き、問題集の問題は11月ごろから集中して行うようにしました。同じ問題を何度も解いていると回答を覚えてしまうので、なるべく同じ問題は時間を空けて解くようにしたり、自分で問題を想定し解いたりしました。また、土壌医検定研修会資料を取寄せて試験に備えました。研修会資料は読んでみると土壌医検定対策用とあって内容がまとまっていて結構役立ちました。

4 試験本番

試験会場は、当初の予定が変更され、埼玉大学から渋谷のフォーラムエイトに変わりました。幸い私は、群馬県から渋谷まで湘南新宿ラインで乗換なしでスムーズに行くことができました。

渋谷にお昼ごろ到着すると、すでに受験者が集まっていました。エレベーターに乗り合わせた数人の女性たちと話をし、「お互い、頑張りましょう」と別れて、近くの食堂で軽い食事をとってから試験会場まで研修会資料に目を通しました。



試験開始前に土壌協会の松本会長から注意事項と試験の説明があり、試験開始の合図でいよいよ試験開始です。まず、4択の問題は努力の甲斐があつてか、50問を40分程の時間で終わらせる事ができ、残り30分程で記述問題と格闘しました。

試験終了後、松本先生から、「来年も試験はあるので、気楽に来年も受験してください」と言われましたが、「来年の話は、〇〇が笑うんじゃないかなって、できれば試験は今年で終わりにしたいよ〜」と、心の中で叫びました。

この日はバレンタインデーだったのでちょっと寄り道をして湘南新宿ラインで帰路につきました。

5 試験結果

試験結果の発表日、2時ちょっと前に土壌医検定のホームページを閲覧したら、すでに1級の合格者が発表されていました。1級受験者67名、合格者19名。合格者番号の中に私の受験番号がありました。喜びと共に、やっと肩の荷が下りました。

6 今後の目標

これからは土壌医検定受験を通じて得た知識を活用し、定期的な土壌診断や生育診断、それに基づく土壌改良を行って、安定した作物生産が行えるような圃場環境作りを目指したいと思います。また、土壌医として、多くの家庭菜園を楽しむ人や農業者の方々に、土づくりの重要性と土壌医検定を知ってもらえるよう広めることと、後継者の育成に力を入れて地域で活動をしていきたいと思っています。

